

自然の中でリフレッシュ

帰帆島の歴史と自然について考えよう！

～矢橋帰帆島の歴史を知り自然を観察するウォーキング～



矢橋帰帆島は1982年に琵琶湖総合開発計画の推進により完成しましたが、その中心である下水処理場としての機能以外にもスポーツ施設や県立水環境科学館なども併設され「矢橋帰帆島公園」として広く県民に利用されています。

この企画では帰帆島の歴史を振り返って、かつ現在の帰帆島を歩きながら、完成後26年を経た今帰帆島建設の意義はどうだったのか参加者同士で考える機会を提供します。



- とき：2008年11月15日(土)午前10時から午後14時40分 小雨決行
- ところ：草津市 矢橋 矢橋帰帆島公園 (公園管理センター前集合)
- 話題提供： 今井 洋氏「滋賀の名木を訪ねる会」世話人
： 佐瀬 章男 (「環境学習支援士」会 副理事長、自然環境分野部会)
- コーディネーター：滋賀大学「環境学習支援士」会 自然環境分野部会
- 対象：一般市民、淡海生涯カレッジ履修生、滋賀大学 環境学習支援士と履修生
- 主催：滋賀大学「環境学習支援士」会 自然環境分野部会
- 協力：滋賀県下水道公社 矢橋帰帆島公園管理事務所
- 会費：200円(保険料等) 募集人数 20名
- 持ち物：弁当、飲料水、筆記用具、帽子、雨具、タオル、万歩計、
- 申し込み・問い合わせ：滋賀大学「環境学習支援士」会

住所：〒520-0862 大津市平津2-5-1(滋賀大学教育学部内)425室

電話：077-537-7821 FAX 077-543-5926

Email：shiga-u-shienshi@ap.lolipop.jp

滋賀大学「環境学習支援士」会 URL：<http://shienshi.com/>

{背景}その歴史と現在(矢橋の集落も含めて)

矢橋帰帆島は1978年に着工し1982年に下水道浄化センターとして運用を開始している。

万葉集に詠まれていることから少なくとも古代には港町の機能を持っていたと思われる。かつては「矢走」「矢馳」「八橋」「箭橋」などとも書かれた。現草津市内には志那・山田・矢橋の三港があったが、矢橋は特に中世に台頭。要港警備の拠点として矢橋氏による矢橋城も築かれた。近世には「矢橋帰帆」として歌川広重の浮世絵に描かれるなど、全国的に有名になった。

明治時代に入ると蒸気船が登場。さらに鉄道が敷設され物資輸送の主役が陸上交通に移ると矢橋港は衰え、矢橋の町も往時のにぎわいを失った。矢橋帰帆島の完成で新興住宅の建設がすすみ、住宅地として発展した。

{目的}

矢橋帰帆島は現在、県主要人口集中地区である東南部の下水処理場としての役目を果たしているが、建設当初の役割と引き換えに、びわ湖南湖の埋め立てによる湖の環境の変化で色々な影響も出ている。私たちがこの島の完成で得たものは何か、失ったものは何か、歴史を振り返りながらその是非を問いたい。

{ねらい}

湖岸には湖の堰堤を兼用して湖岸道路が走り、車社会の中で県内交通網の重要な位置を占めている。島内の施設も運動施設や県立水環境科学館など整備されているが、公共交通網はつながっていない。完成後26年を経て島内の樹木は成長し、びわ湖の水鳥や一般鳥類、昆虫の貴重な住み家となっている。この企画では矢橋帰帆島の完成の歴史を振り返りながら、現在の状況を現地で観察し将来の矢橋帰帆島のあり方を考えるきっかけとしたい。

[プログラム]

10時～11時 歴史や樹木の説明 11時15～45分 県立水環境科学館見学→北周囲の島の周回
12時20分～13時 昼食→南周囲の島の周回(野鳥の観察)(樹木の観察) 14時～感想とアンケート

[話題提供者・団体紹介]

◆ 今井 洋氏

「滋賀の名木を訪ねる会」世話人。県内の巨木・名木巡回数百本。巨木・名木の案内や写真展の開催など、啓発を行っている。



交通：自家用車の方は駐車場あります。
バスご利用の方は下記参照
南草津駅西口より 「矢橋循環」乗車
矢橋北口下車 西に矢橋大橋を渡る(徒歩10分)
バスの時間は
南草津駅西口 8時33分、9時00分
南草津駅より徒歩で参加の方
南草津駅西口より帰帆島まで約50分です。
※島内にはゴミ箱はありません。

参加申込書	FAX 077-543-5926	Email : shiga-u-shienshi@ap.lolipop.jp
お名前(ふりがな)		ご所属
連絡先住所(自宅・勤務先) 〒		
連絡先電話	FAX	Email